Canon

SPEEDLITE 320EX

使用説明書

キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。

キヤノンスピードライト320EXは、E-TTL II/E-TTL自動調光システムに対応した、EOSカメラ用の多機能ストロボです。カメラのアクセサリーシューに取り付けて使用するクリップオンストロボと、カメラから離して使用するワイヤレススレーブストロボの機能を備えています。また、動画撮影用のLEDライトも備えています。

● **カメラの使用説明書もあわせてお読みください。**
　ご使用になる前に、この使用説明書とカメラの使用説明書をお読みになって理解を深め、操作に慣れた上で正しくお使いください。

カメラとの組み合わせについて

● **EOSデジタルカメラとの組み合わせ**
- 「内蔵ストロボ撮影と同じような感覚」で、気軽にストロボの自動調光撮影を行うことができます。

● **EOSフィルムカメラとの組み合わせ**
- E-TTL II/E-TTL自動調光方式のEOSフィルムカメラと組み合わせたときは、「内蔵ストロボ撮影と同じような感覚」で、気軽にストロボの自動調光撮影を行うことができます。
- **TTL自動調光方式のEOSフィルムカメラとの組み合わせでは、使用できません。**

● **カメラタイプについて**
　カメラの使用説明書では、便宜上、E-TTL II/E-TTL自動調光システムに対応しているカメラを「**Aタイプカメラ**」と表記しています。

目　次

各部の名称

発光部（p.19）

LEDライト（p.23）

ワイヤレス受信部（p.35）

リモコン送信部（p.39）

取り付け脚（p.9）

取り付け脚ロックピン（p.9）

接点

ケース

320EX専用ミニスタンド（p.35）

バウンス角度指標(p.21)
60
75
発光グループ選択
スイッチ(p.34/36)
ワイヤレス通信チャンネル
選択スイッチ(p.34)
リモートレリーズボタン
(p.38/39)
Gr.
A B C
CH.
1 2 3 4
充電完了ランプ(p.10)
TELE
発光部引き出しランプ
(p.19)
LEDライト手動点灯
ボタン(p.23)
LED
LIGHT
SLAVE
OFF ON
M AUTO
電池室ふた(p.8)
BATT.
OPEN
電源スイッチ/
スレーブ機能スイッチ
(p.10/34/39)
〈ON〉:電源を入れる
〈SLAVE〉:ワイヤレスストロボ撮影時
〈OFF〉:電源を切る
LEDライトスイッチ
(p.22/23)
LOCK
取り付け脚ロックレバー
(p.9)
ロック解除ボタン
(p.9)

本使用説明書上のおことわり

本文中の絵文字について

⏱16：操作ボタンから指を離したあとに、ボタンを押した状態が16秒間保持されることを示しています。

応用：ページタイトル右の応用は、カメラの応用撮影ゾーン限定で使用できる機能であることを示しています。

（p.＊＊）：参照ページを示しています。

⚠：撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。

📝：補足説明や補足事項を記載しています。

操作説明の前提について

- この使用説明書では、カメラとストロボの電源スイッチが入っていることを前提に操作方法を説明しています。
- 本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンやマークなど、カメラとストロボに使われている絵文字を使用しています。
- カメラのメニュー機能、カスタム機能とストロボのカスタム機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 各種数値は、単3形アルカリ乾電池を4本使用し、当社試験基準で測定した値です。

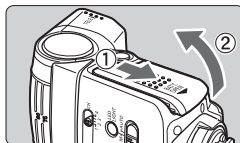
1

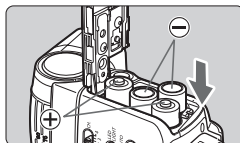
使用前の準備と簡単な撮影

連続発光に関するご注意

- ストロボ発光部の発熱と劣化を防ぐため、連続発光は20回までとしてください。20回連続発光したときは、10分以上休止してください。
- 20回以上連続発光したあと、さらに、短時間に繰り返し発光を行った場合には、内部の発熱防止安全機能が働き、発光間隔が強制的に約8～20秒になることがあります。そのときは約15分休止すると、元の状態に戻ります。

電池を入れる

電池は、単3形電池4本を使用します。

1 ふたを開ける

● 電池室ふたを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開けます。

2 電池を入れる

● 表示にしたがって、「+」「—」をまちがえないように電池を入れます。

3 ふたを閉じる

● 電池室ふたを閉じて、矢印の方向にスライドさせます。

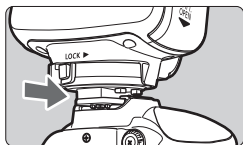
発光間隔と発光回数

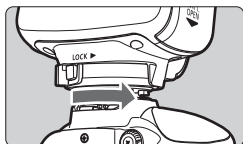
発光間隔（約）	発光回数（約）
0.1～2.3秒	180～1000

● 新品の単3形アルカリ乾電池使用、当社試験基準による数値です。

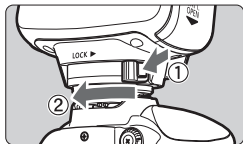
● アルカリ乾電池以外の単3形電池は、接点形状が規格で統一されていないものがあるため、電池の種類によっては、接触不良を起こす場合があります。
● 連続発光後に電池を交換する場合は、電池が熱くなっていることがありますので、ご注意ください。

● 電池は4本とも新品で同一銘柄の電池を使用してください。電池の交換は4本同時に行ってください。
● 単3形のニッケル水素電池、リチウム電池も使用できます。

カメラに取り付ける／取り外す

1 取り付ける

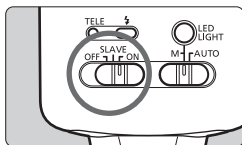
● ストロボの取り付け脚が、アクセサリーシューの奥に突き当たるまで差し込みます。（取り付け脚の後ろ側は、アクセサリーシューから、少しはみ出します）

2 固定する

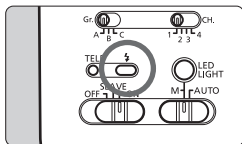
● 取り付け脚ロックレバーを、右方向へスライドさせます。

➡ カチッと音がしてロックされます。

3 取り外す

● ロック解除ボタンを押しながら、取り付け脚ロックレバーを左方向にスライドさせて、カメラから外します。

ストロボの取り付け／取り外しは、必ずストロボの電源を切ってから行ってください。

電源を入れる

1 **電源スイッチを〈ON〉にする**

➡ 充電を開始します。

2 **充電を確認する**

● 充電完了ランプの状態が、消灯→赤色点滅→赤色点灯（フル充電）に変わります。

クイック発光機能について

フル充電前でも、ストロボ撮影（クイック発光）できる状態になると、充電完了ランプが点滅します。

すぐに撮影することができますが、光量はフル充電状態の1/2〜1/3になります。ごく近い被写体の撮影に有効です。

オートパワーオフ機能について

電池消耗を防ぐため、90秒間何も操作しないと、自動的に電源が切れます。もう一度電源を入れるには、カメラのシャッターボタンを半押しします。

● 連続してストロボ撮影を行うと、オートパワーオフまでの時間が長くなることがあります。
● オートパワーオフ機能が働かないようにすることができます（p.32）。

全自動ストロボ撮影

カメラを準備する

カメラの撮影モードを〈**P**〉（プログラムAE）、または全自動に設定すると、「カメラまかせのE-TTL II/E-TTL全自動ストロボ撮影」を行うことができます。

外部ストロボ機能の設定ができるカメラ

- カメラの〈MENU〉ボタンを押して、［**ストロボ制御**］または［**外部ストロボ制御**］を選びます。
- ［**外部ストロボ機能設定**］を選び、［**発光モード**］を［**E-TTL II**］に設定します。

外部ストロボ機能の設定ができないカメラ

- EOSデジタルカメラでカメラのメニュー機能に［**ストロボ制御**］または［**外部ストロボ制御**］がない機種や、EOS フィルムカメラでは、発光モードを変更できないため、この操作は必要ありません。

 LEDライト（p.22）点灯中は、ストロボが発光しません。

 「全自動」は〈A+〉、〈□〉、〈CA〉の撮影モードを示しています。

撮影する

⚡ 60 5.6

1 ピントを合わせる

● シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。

➡ ファインダー内に、シャッター速度と絞り数値が設定されます。

● ファインダー内の〈⚡〉点灯を確認します。

2 撮影する

➡ シャッターボタンを全押しすると、ストロボが発光し、撮影されます。

撮影後、カメラ本体の液晶モニターで画像を確認してください。ストロボ光が被写体に届かなかった場合は、被写体に近づいて再度撮影します。デジタルカメラでは、ISO感度を上げる方法もあります。

撮影モード別のストロボ撮影

ストロボの発光モードがE-TTL II/E-TTL自動調光のときは、カメラの撮影モードを〈**Tv**〉（シャッター優先AE）、〈**Av**〉（絞り優先AE）、〈**M**〉（マニュアル露出）、に設定するだけで、それぞれの撮影モードに応じた自動調光撮影を行うことができます。

なお、EOSデジタルカメラでカメラのメニュー機能に［**ストロボ制御**］がない機種や、EOSフィルムカメラでは、自動的にE-TTL II/E-TTL自動調光に設定されます。

Tv：シャッター優先AE

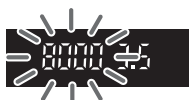
任意のシャッター速度を設定したいときに選択します。

設定したシャッター速度に対し、カメラが適正露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。

- 絞り数値が点滅するときは、背景が露出アンダー、またはオーバーになります。絞り数値が点灯するよう設定を変更してください。

Av：絞り優先AE

任意の絞り数値を設定したいときに選択します。
設定した絞り数値に対し、カメラが適正露出に必要なシャッター速度を自動的に設定します。
夜景などを背景にした暗い場所では、主被写体も背景も標準露出となる、スローシンクロ撮影になります。主被写体はストロボ光で、背景はスローシャッターによる長秒時露光で標準露出となります。

- シャッター速度が点滅するときは、背景が露出アンダー、またはオーバーになります。シャッター速度が点灯するよう設定を変更してください。

M：マニュアル露出

シャッター速度も絞り数値も任意に設定したいときに選択します。
主被写体は、ストロボ光で標準露出となります。背景の露出は、設定したシャッター速度と絞り数値によって変わります。

DEP：深度優先AE、A-DEP：自動深度優先AE

● 〈**P**〉（プログラムAE）によるストロボ撮影と同じ結果になります。

撮影モード別のストロボ同調シャッター速度と絞り数値

	シャッター速度	絞り数値
全自動、〈P〉	自動設定（1/X～1/60秒）	自動設定
Tv	手動で設定（1/X～30秒）	自動設定
Av	自動設定（1/X～30秒）	手動で設定
M	手動で設定（1/X～30秒、Bulb）	手動で設定

● 1/X秒は、各カメラのストロボ同調最高シャッター速度です。

色温度情報通信について

　ストロボ発光時の色温度情報をEOSデジタルカメラに伝えることで、ストロボ撮影時のホワイトバランスを最適にする機能です。カメラのホワイトバランスが、〈AWB〉、〈ϟ〉のときに、自動的に働きます。

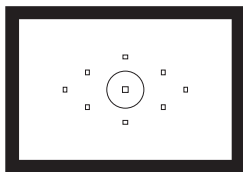
　対象機種については、カメラ使用説明書の主な仕様をご覧ください。

2

ストロボ撮影応用編

✱FEロック 応用

FE（Flash Exposure)ロックは、被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。

FEロックは、発光モードがE-TTL II/E-TTL自動調光のときに、カメラの〈✱〉ボタンを押して行います。なお、〈M-Fn〉ボタン、または〈FE L〉ボタンを押して行うカメラもあります。

1 **被写体にピントを合わせる**

2 **〈✱〉ボタンを押す**（⏱16）

- 被写体をファインダー中央において〈✱〉ボタンを押します。
- ➡ ストロボがプリ発光し、撮影に必要な露光量を記憶します。
- ➡ ファインダー内に「**FEL**」が約0.5秒間表示されます。
- 〈✱〉ボタンを押すたびにプリ発光し、そのとき必要な露光量を記憶します。

3 **撮影する**

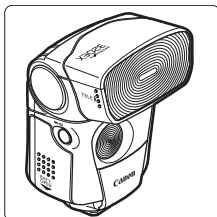
- 構図を決めてシャッターボタンを全押しします。
- ➡ ストロボが発光し、撮影されます。

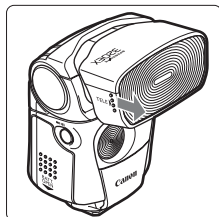
- 被写体までの距離が遠すぎて露出不足になるときは、ファインダー内の〈ϟ〉が点滅します。被写体に近づいて再度FEロックを行います。デジタルカメラでは、ISO感度を上げて再度FEロックする方法もあります。
- ファインダー視野に対して被写体が小さいと、FEロックの効果が得られない場合があります。

照射角の切り換え

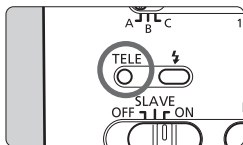
　レンズの焦点距離に応じて手動で発光部を伸縮させます。EF レンズとEF-S レンズで焦点距離が異なりますので、下記の表（レンズの焦点距離に対する発光部の状態）を参考にして発光部を伸縮させてください。

発光部の状態

通常状態

ガイドナンバー 24（ISO100・m）

引き出し状態

ガイドナンバー 32（ISO100・m）

発光部の状態とレンズ焦点距離の関係

発光部の状態		通常状態	引き出し状態
レンズの焦点距離	EF-Sレンズ	15mm以上	32mm以上
	EFレンズ	24mm以上	50mm以上

- レンズの焦点距離がEF-Sレンズで32mm以上、EFレンズで50mm以上のときは、「引き出し状態」にしたほうがストロボの発光量が大きくなり、遠くまでストロボ撮影することができます。
- 「引き出し状態」にすると、ストロボの〈TELE〉ランプが点灯、または点滅します。
- 〈TELE〉ランプが点滅するときは、「通常状態」で撮影してください。〈TELE〉ランプが点滅した状態で撮影すると、写真の周辺が暗くなる場合があります。

ストロボ撮影距離範囲の目安

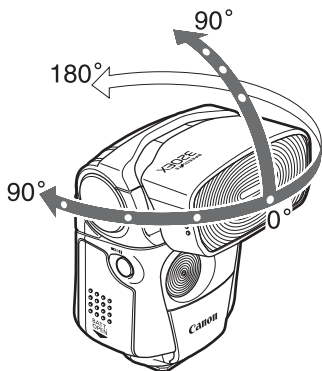
EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS使用時［約・m］

ISO	発光部通常状態		発光部引き出し状態	
	18mm	55mm	18mm	55mm
100	1～6.9	1～4.3	–	1～5.7
200	1～9.7	1～6.1	–	1～8.1
400	1～13.7	1～8.6	–	1～11.4
800	1.2～19.4	1～12.1	–	1～16.2
1600	1.7～27.4	1～17.1	–	1～22.9
3200	2.4～38.8	1.5～24.2	–	1.4～32.3
6400	3.4～54.9	2.1～34.3	–	2～45.7
12800	4.8 ～77.6	3～48.5	–	2.8～64.6

バウンス撮影

　ストロボ発光部を壁や天井に向けて発光させ､その反射光を利用して撮影すると、被写体背後の影が緩和されて、より自然な感じになります。これをバウンス撮影といいます。

発光部の向きを変える

- 図のように発光部を回転させることができます。
- バウンス撮影では通常、発光部は引き出した状態にしておきます。

- バウンスさせる壁や天井までの距離が離れていると、反射光が届かずに光量不足になることがあります。撮影した画像が暗く見える時は、より小さな絞り数値を設定して（絞りを開いて）再度撮影してください。デジタルカメラではISO感度を上げる方法もあります。
- バウンスさせる壁や天井は無地の白に近い色をした、反射率の高いものを選んでください。反射面に色がついていると、撮影結果がその色の影響を受けます。

AF補助光

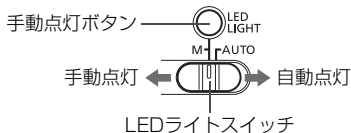
暗い場所で、AFでピントが合いにくい時は、AF補助光という機能が自動的に働きます。

ストロボ連続発光によるAF補助光

ファインダー撮影のときに、暗い場所でAFでピントが合いにくい時は、シャッターボタンを半押しすると、ストロボが連続的に光り、AFのピント合わせを補助します。ライブビュー撮影と動画撮影のAFモードが［**クイックモード**］のときも同じ条件でストロボが連続的に光ります。有効距離は約4mです。

なお、この機能は、外部ストロボの制御機能を備えたEOSデジタルカメラとの組み合わせ時に働きます。機種によっては、ファームウェアのアップデートが必要な場合があります。

LEDライトによるAF補助光

ライブビュー撮影、動画撮影時に、AFモードが［**ライブモード**］と［**ライブモード**］のときは、LEDライトをAF補助光として使用できます。有効距離は約4m（F1.8レンズ使用時・ISO 3200）です。

手動点灯

- LEDライトスイッチを〈**M**〉に設定し、LEDライトが点灯するまで〈**LED LIGHT**〉ボタンを押します。
- 何も操作しないと、約60分後に消灯します。
- LEDライトを消すときは、消灯するまで〈**LED LIGHT**〉ボタンを押します。

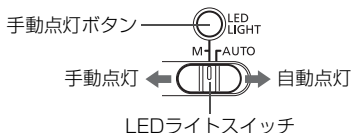
LEDライト点灯中は、ストロボが発光しません。

自動点灯

- LEDライトの自動点灯機能を備えたカメラでは、LEDライトスイッチを〈AUTO〉に設定します。
- 暗い場所でシャッターボタンを半押しすると、自動的にLEDライトが点灯して、AFのピント合わせを補助します。

LED ライトによる動画撮影

動画撮影機能を備えたEOSデジタルカメラ用のLEDライトです。

- EF レンズ 50mm 以上、EF-S レンズ 32mm以上の画角に対応しています。
- 新品電池使用時の最長使用時間は、約3.5時間です。

手動で点灯させる

- LEDライトスイッチを〈M〉に設定し、LEDライトが点灯するまで〈LED LIGHT〉ボタンを押します。

➡ LEDライトが点灯します。

- LEDライトを消すときは、消灯するまで〈LED LIGHT〉ボタンを押します。

自動で点灯させる

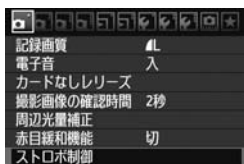
LEDライトの自動点灯機能を備えたカメラでは、暗い場所で撮影するときに、自動的にLEDライトが点灯します。

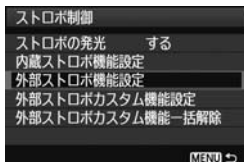
- LEDライトスイッチを〈AUTO〉に設定します。
- 液晶モニターに映像が表示されている間、周囲の明るさに応じてLEDライトが自動的に点灯／消灯します。
- LEDライト自動点灯中は、液晶モニターに〈✸〉が表示されます。

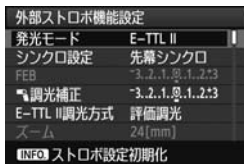
- LEDライトを使用して人物を撮影するときは、1m以上離れてください。目の近くでLEDライトを使用すると、視力障害を起こす危険性があります。
- 自動点灯設定時、暗い場所でライブビュー／動画撮影を行うと、LED ライトが点灯します。ストロボの電池消耗を防ぐために、LEDライトが必要ない時はストロボの電源を〈OFF〉にするか、LEDライトスイッチを〈M〉にしてください。
- 電池の残量が少なくなると、充電完了ランプが点灯していても、LED ライトが点灯しないことがあります。LEDライトが点灯しないときは、ストロボの電池を交換してください。
- LED ライトの自動点灯に対応しているカメラでは、動画撮影時にストロボの電池の残量が少なくなると、カメラの液晶モニターの〈✸〉マークが点滅する場合があります。LEDライトが点灯しないときは、ストロボの電池を交換してください。

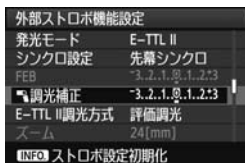
カメラ操作による ストロボ機能設定

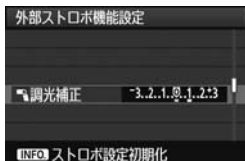
カメラのメニュー画面からのストロボ制御 応用

外部ストロボの制御機能を備えたEOSデジタルカメラに320EXを装着すると、カメラのメニュー画面からさまざまなストロボ機能を設定することができます。

1 ［ストロボ制御］を選ぶ

- カメラの〈MENU〉ボタンを押して、［**ストロボ制御**］または［**外部ストロボ制御**］を選びます。
- ➡［**外部ストロボ機能設定**］と［**外部ストロボカスタム機能設定**］、［**外部ストロボカスタム機能一括解除**］が表示されます。

2 ［外部ストロボ機能設定］を選ぶ

- ➡ 表示される［**外部ストロボ機能設定**］画面から様々なストロボ設定ができます。

調光補正 応用

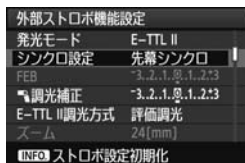
露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。設定できる補正量は1/3段ステップ±3段の範囲です。（カメラの露出設定が1/2段ステップの場合は1/2段ステップ）

1 ［調光補正］を選ぶ

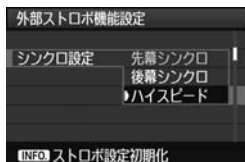
- ［調光補正］を選び、〈SET〉を押します。

2 調光補正量を設定する

- 調光補正量を設定し、〈SET〉を押します。
- ➡ 調光補正量が設定されます。

- カメラによって、クイック設定画面で設定できるカメラもあります。
- 一般的に、黒い被写体に対してはマイナス補正、白い被写体に対してはプラス補正を行います。

ハイスピードシンクロ撮影 応用

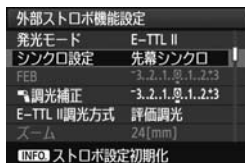
ハイスピードシンクロ（FP発光）を使用すると、すべてのシャッター速度でストロボ撮影を行うことができます。特に日中シンクロによるポートレート撮影を、絞り優先で行いたいときに有効です。

1 ［シンクロ設定］を選ぶ

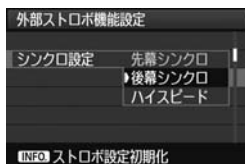
- ［**シンクロ設定**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［ハイスピード］を設定する

- ［**ハイスピード**］を設定し、〈SET〉を押します。
- ➡ ハイスピードシンクロ撮影が設定されます。

- ファインダー内で〈H〉の点灯を確認します。
- シャッター速度をストロボ同調最高シャッター速度以下に設定した場合は、ファインダー内に〈H〉は表示されません。
- ハイスピードシンクロ撮影では、シャッター速度が高速になるほどストロボ光の到達距離が短くなります。
- 通常の発光に戻すときは、［**シンクロ設定**］のメニュー項目を［**先幕シンクロ**］の設定に戻してください。

後幕シンクロ撮影 応用

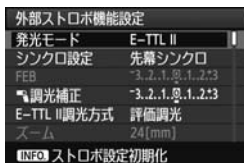
　低速シャッター速度設定時に光源の軌跡を写し込むときに有効です。シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。

1 ［シンクロ設定］を選ぶ

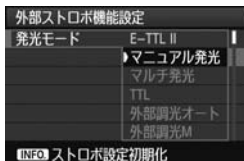
- ［**シンクロ設定**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［後幕シンクロ］を設定する

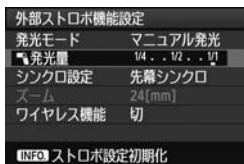
- ［**後幕シンクロ**］を設定し、〈SET〉を押します。
- ➡ 後幕シンクロ撮影が設定されます。

- カメラの撮影モードをバルブ撮影にすると後幕シンクロ撮影がしやすくなります。
- 通常の発光に戻すときは［**シンクロ設定**］のメニュー項目を［**先幕シンクロ**］の設定に戻してください。
- E-TTL II/E-TTL撮影時は、シャッターボタンを全押しした直後にストロボがプリ発光し、シャッターが閉じる直前にもう一度発光します。

マニュアル発光 応用

フル発光（1/1）から1/64発光まで、発光量を1/3段ステップで設定することが可能です。市販のフラッシュメーターを使用して発光量を決めると、正確な露出を得ることができます。カメラの撮影モードを〈**Av**〉または〈**M**〉に設定することをおすすめします。

1 ［発光モード］を選ぶ

- ［**発光モード**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［マニュアル発光］を選ぶ

- ［**マニュアル発光**］を選び、〈SET〉を押します。

3 ［発光量］を設定する

- ［**発光量**］を選び、〈SET〉を押します。
- 発光量を設定し、〈SET〉を押します。

ストロボメータードマニュアル撮影について

EOS-1Dシリーズカメラ装着時に、手動で調光レベルを決めて撮影することができます。

1 カメラとストロボの機能を設定する

- カメラの撮影モードを〈**Av**〉または〈**M**〉に設定することをおすすめします。
- ストロボの［**発光モード**］を［**マニュアル発光**］に設定します。

2 ピントを合わせる

- 手動で被写体にピントを合わせます。

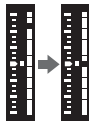
3 18%標準反射板をセットする

- 標準反射板を被写体の位置におきます。
- ファインダー内の中央部スポット範囲の領域全体に、標準反射板がくるようにします。

4 〈FEL〉ボタンを押す（⏱16）

➡ ストロボがプリ発光し、適正調光に必要な発光量が記憶されます。
➡ ファインダー内右側の露出レベル表示に、適正調光に対する調光レベルが表示されます。

5 調光レベルを設定する

- 調光レベルが標準露出指標の位置にくるように、ストロボのマニュアル発光量とカメラの絞り数値を設定します。

6 撮影する

- 標準反射板を取り除いて、撮影します。

カスタム機能で変更できる内容 応用

撮影スタイルに応じて、ストロボの機能を細かく変更することができます。これをカスタム機能といいます。

外部ストロボカスタム機能の設定方法

1 ［ストロボ制御］のメニュー画面で［外部ストロボカスタム機能設定］を選び、〈SET〉を押します。

2 カメラ本体のカスタム機能と同じように、カスタム機能の番号を選び、設定を変更します。

カスタム機能番号	項目	設定番号	設定・変更内容	参照ページ
C.Fn-01	オートパワーオフ	0	入	p.10
		1	切	
C.Fn-06	連続撮影時のクイック発光	0	しない	p.10
		1	する	
C.Fn-10	スレーブのオートパワーオフ時間	0	60分	p.35
		1	10分	
C.Fn-11	スレーブのオートパワーオフ解除	0	8時間以内	p.35
		1	1時間以内	

- **C.Fn-10**：ワイヤレスストロボ撮影で、320EXをスレーブに設定したときに働きます。電池の消耗を少なくしたいときは、オートパワーオフ時間を「10分」に設定します。
- **C.Fn-11**：ワイヤレスストロボ撮影で、320EX をスレーブに設定したときに働きます。320EXがオートパワーオフ状態になってから「8時間以内」または「1時間以内」であればマスター側の操作で320EXのオートパワーオフ状態を解除できます。

外部ストロボカスタム機能一括解除

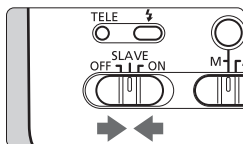
［**ストロボ制御**］のメニュー画面で［**外部ストロボカスタム機能一括削除**］を選ぶと、設定されているストロボカスタム機能がすべて解除されます。

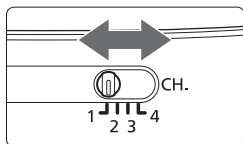
ワイヤレスストロボ撮影

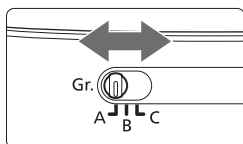
ワイヤレスストロボ撮影 応用

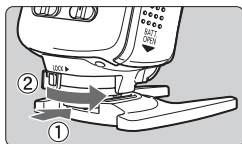
ワイヤレスストロボ撮影を行うためには、カメラ、またはカメラに取り付けたスピードライトが「マスター」機能を備えている必要があります。320EXは「スレーブ」ストロボとして、上記の「マスター」からの制御で発光します。詳しい撮影方法は、マスター機能を備えたカメラ、またはスピードライトの使用説明書をお読みください。

1 カメラ、またはスピードライトをマスターに設定する

- カメラ、またはスピードライトの使用説明書をお読みください。

2 320EXをスレーブに設定する

- 320EXの電源スイッチを〈SLAVE〉に設定します。

3 通信チャンネルを設定する

- マスター側で通信チャンネルを設定します。
- マスターと同じ通信チャンネルを320EXに設定します。

4 ［発光グループ］を設定する

- マスター側の撮影意図にあわせて発光グループを設定します。

5 付属のミニスタンドを取り付けて、ストロボを配置する

- 左右バウンス機能を利用し、スレーブの受信部をマスター側に向けます。
- 室内では、320EXのワイヤレス受信部がカメラに向かっていなくても、壁面などの反射でワイヤレスストロボ撮影できることがあります。320EXが発光することを確認しながら配置してください。

6 撮影する

- 通常のストロボ撮影と同じように、カメラを設定して撮影します。
- ワイヤレスストロボ撮影を終了するときは、［**ワイヤレス機能**］を［**切**］に設定します。

- マスターとスレーブの間に障害物をおかないでください。送受信の妨げになります。
- スレーブ設定にした複数のストロボを配置したときも、同じようにワイヤレス制御されます。
- スレーブがオートパワーオフ状態になったときは、FEロック操作を行うか、スレーブの電源を入れなおすと、スレーブの電源が入ります。

全自動ワイヤレスストロボの応用撮影

本システムでは、マスターで設定した調光補正などの内容が、そのままスレーブに自動設定される仕組みになっています。スレーブ側の操作は必要ありません。以下のワイヤレスストロボ撮影を、通常のストロボ撮影と同じ操作で行うことができます。

・ストロボ調光補正
・FEロック
・マニュアル発光

FEロックでは、ストロボが１台でも露出不足になると、ファインダー内の〈ϟ〉が点滅します。絞りを開くか、スレーブを被写体に近づけてください。

グループ制御について

例えば、発光グループを〈A〉にした3つのスレーブがある場合は、３つを１灯のＡグループスレーブとみなして制御します。

モデリング発光

モデリング発光は、被写体の影の出かたや、ライティングのバランスを確認するときに使用します。モデリング発光は、カメラにマスターストロボ、またはスピードライトトランスミッター（別売）を装着したときに行うことができます。ワイヤレスストロボ撮影だけではなく、通常のストロボ撮影時にも使用可能です。

カメラの絞り込みボタンを押す

➡ ストロボが約1秒間連続発光します。

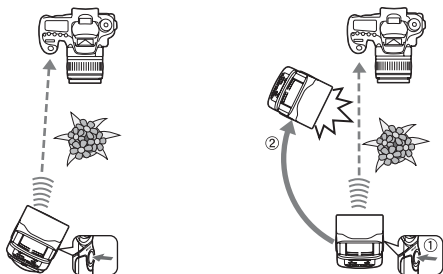
● 被写体の影が好みの出方になるよう、ストロボを動かして配置します。

● マスター機能を備えたカメラでは、ワイヤレスストロボ撮影でのモデリング発光はできません。

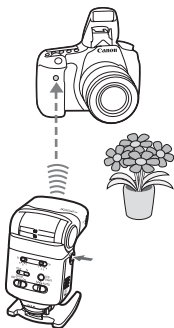
● モデリング発光は、連続10回までにしてください。発光部の発熱と劣化を防ぐため、連続10回発光したら、10分以上休止してください。

ワイヤレスストロボ撮影時に、320EXでリモコン撮影する

リモートコントローラー RC-1、RC-5、RC-6 に対応したカメラでは、320EXでリモコン撮影を行うことができます。ワイヤレスストロボ撮影ができる状態のときは、320EXの配置を手軽に変えながらリモコン撮影を行うことができます。

ワイヤレスストロボ撮影時の使用例

- 320EXのリモートレリーズボタンを押し、2秒以内に320EXを配置します。

1 カメラを〈〉（リモコン撮影）に設定する

- 設定方法は、カメラ使用説明書のドライブモード、またはリモコン撮影のページをお読みください。
- カメラのファインダー接眼部を遮光して、光が入らないようにしてください。

2 撮影する

- 〈ϟ〉ランプの点灯を確認し、リモコン送信部をカメラに向けてリモートレリーズボタンを押します。
- ➡ 2秒後に撮影が行われます。
- ワイヤレスストロボ撮影ができる状態で、320EXの電源スイッチが〈SLAVE〉のときは、320EXが発光します。

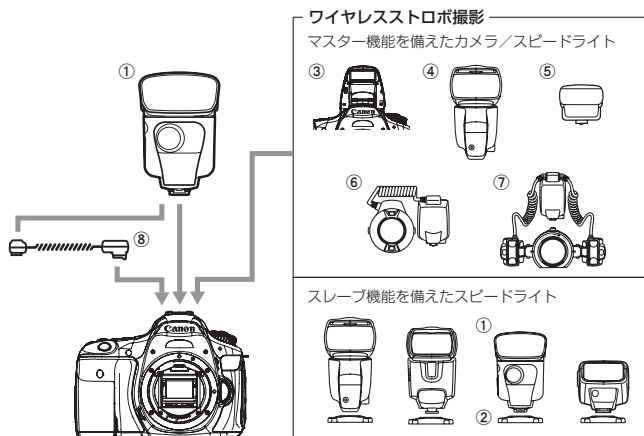
バルブ（長時間露出）撮影

バルブ撮影時にリモートレリーズボタンを押すと、2秒後にシャッターが開きます。もう一度リモートレリーズボタンを押すとシャッターが閉じます。

充電完了ランプが点灯しないと、リモートレリーズボタンを押してもリモコン撮影ができません。

- 320EXのリモコン送信部とワイヤレス受信部を手でふさがないよう注意してください。
- 作動距離はカメラ正面で約5mです。
- リモコン撮影は、撮影結果を確認しながら行ってください。
- 320EXの電源スイッチを〈ON〉にしてリモートレリーズボタンを押すと、リモートコントローラー RC-6 と同じ 2 秒後撮影を行うことができます。320EXは発光しません。

資料

320EXのシステム

① **スピードライト320EX**（クリップオン／スレーブ）

② **ミニスタンド**（320EXに付属）

③ **ワイヤレスマスター機能を備えたEOSカメラ**

④ **スピードライト580EX II**

⑤ **スピードライトトランスミッター ST-E2**
スレーブ設定された320EXをワイヤレス制御するための専用送信機です。

⑥ **マクロリングライトMR-14EX**／ ⑦ **マクロツインライトMT-24EX**
近接撮影用のマクロストロボです。

⑧ **オフカメラシューコードOC-E3**
320EXをカメラから約60cmまで離して使用することができます。

故障かな？と思ったら

「ストロボが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは修理受付窓口に相談してください。

ストロボが発光しない

- 電池が正しい向きに入っているか確認してください。（p.8）
- 取り付け脚をアクセサリーシューの奥まで入れ、ロックレバーを右方向にスライドさせて、しっかりとカメラに固定してください。（p.9）
- 30秒たってもフル充電にならないときは、電池を交換してください。（p.8）
- ストロボとカメラの接点部分が汚れているときは、接点を清掃してください。（p.4）

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働きました。シャッターボタンを半押ししてください。（p.10）

写真の下側が暗い

- 撮影距離が近すぎます。被写体から離れて撮影してください。
- レンズフードがついているときは、取り外してください。

写真の周辺が暗い

- 発光部を引き出した状態で撮影をしているときは、照射角が狭くなります。発光部を元の位置に戻してから撮影してください。（p.19）

ストロボの露出がアンダー、またはオーバーになる

- 画面内に窓ガラスなど、反射率の高いものがあるときは、FEロック撮影を行ってください。（p.18）
- 被写体が暗い、または明るいときは、調光補正を行ってください。（p.27）
- ハイスピードシンクロを設定した場合は連動距離が短くなるため、被写体に近付いて撮影してください。（p.28）

写真が大きくブレている

- 暗い場所で、〈**Av**〉モードで撮影すると、自動スローシンクロ撮影になり、シャッター速度が遅くなります。三脚を使用するか、〈**P**〉モードで撮影してください。（p.12）

スレーブが発光しない

- カメラの内蔵ストロボをマスターストロボとして使用するときは、
  - ・カメラの内蔵ストロボを上げてください。
  - ・カメラの［**内蔵ストロボ機能設定**］でワイヤレス機能を設定してください。
- 電源スイッチを〈SLAVE〉に設定してください。（p.34）
- マスターストロボと同じチャンネルに設定されているか、確認してください。（p.34）
- スレーブのワイヤレス受信部をマスターストロボに向けてください。（p.35）

動画の画面の周辺が暗い

- 暗い場所でLEDライトを使用するときは、EFレンズで50mm、EF-Sレンズで32mmより望遠側で撮影してください。（p.23）

リモコン撮影ができない

- リモートコントローラー RC-1、RC-5、RC-6に対応したカメラでリモコン撮影ができます。（p.38）
- カメラのドライブモードを〈 〉（リモコン撮影）に設定してください。

主な仕様

■型式

型式....................................クリップオンタイプE-TTL II／E-TTL自動調光ストロボ
対応カメラ........................EOS・Aタイプカメラ（E-TTL II／E-TTL自動調光）
ガイドナンバー.................32（照射角50mm設定時　ISO100・m）
照射角...............................EFレンズ：24mm/50mm相当の画角に対応
EF-Sレンズ：15mm/32mm相当の画角に対応
*照射角手動切り換え
バウンス方向....................上90°、左180°、右90°
色温度情報通信.................発光時のストロボ色温度情報をカメラに送信

■露出制御

露出制御方式....................E-TTL II／E-TTL自動調光、マニュアル発光
調光連動範囲....................通常発光：0.7～22.9m
クイック発光：0.7～13.1m
ハイスピードシンクロ：0.7～11.4m（1/250秒時）
*EF50mm F1.4レンズ使用時・ISO100
カメラ操作対応機能..........調光補正（1/3段または1/2段ステップ、±3段）、マニュアル発光、先幕／後幕シンクロ、ハイスピードシンクロ、FEロック、モデリング発光

■AF補助光

・ストロボ間欠発光方式

対応AF方式......................ファインダー撮影時のAFと、ライブビュー撮影、動画撮影時の［**クイックモード**］時
有効距離...........................中央：約0.7～4m、周辺：約0.7～3.5m

・LEDライトによるAF補助光

対応AF方式......................ライブビュー撮影と動画撮影時の［**ライブモード**］、および［**顔ライブモード**］時
有効距離...........................中央：約0.7～4m、周辺：約0.7～3m

■ワイヤレススレーブ機能

通信方式...........................光パルス
チャンネル数....................4
グループ切り換え.............A、B、Cグループ切り換え可能
受信角...............................マスターに対して、左右±45°、上27°、下20°

■LEDライト

明るさ................................約75ルクス（1m）
照射角................................EF50mmレンズ対応
到達距離............................ISO 3200時
F1.4：約4m、F2.8：約2m、F4：約1.4m、
F5.6：約1m

■リモートレリーズ機能

対応カメラ........................リモートコントローラー RC-6、RC-5、RC-1対応カメラ
レリーズモード................2秒後レリーズ
作動距離............................カメラ正面約5m

■カスタム機能..............4種類・8項目

■電源

使用電池............................単3形アルカリ乾電池 4本
*単3形ニッケル水素電池、リチウム電池使用可能
発光間隔............................約0.1 ～ 2.3秒（クイック発光：約0.1 ～ 1.8秒）
充電完了表示.....................充電完了ランプ点灯
発光回数............................約180～1000回（単3形アルカリ乾電池使用時）
LEDライト.......................最長約3.5時間点灯（単3形アルカリ乾電池使用時）
節電機能............................約90秒放置で電源OFF（スレーブ設定時60分）

■大きさ・質量

大きさ................................約70（幅）×115（高さ）×78.4（奥行）mm
質量....................................約275g（ストロボ本体のみ、電池別）

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

マニュアル発光のガイドナンバー（ISO100・m）

発光量 / 照射角	1/1	1/2	1/4	1/8	1/16	1/32	1/64
24mm (発光部通常状態)	24	17	12	8.5	6	4.2	3
50mm (発光部引き出し状態)	32	22.6	16	11.3	8	5.7	4

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品のアフターサービス期間は、製品製造打切り後5年間です。なお、弊社の判断により、アフターサービスとして同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

安全上のご注意

下記注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解して製品を正しく安全にお使いください。

⚠ 警告　下記の注意を守らないと、死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

- 発火、発熱、液漏れ、破裂の原因となりますので次のことはしないでください。
  - ・本体・付属品・接続ケーブル等の接点部に金属を差し込むこと。
  - ・指定以外の電池や変形した電池の使用、充電、ショート、分解、変形、加熱、ハンダ付け、火中投入。
  - ・＋－を逆に入れること。新品電池と使用済電池、種類の違う電池の混用。
- 電池や付属品は、お子様の手の届かない所に置いてください。万一飲み込んだ際は、直ちに医師に相談してください。（電池の液で胃腸が冒される恐れがあります）
- 電池を廃却する時は、テープなどで絶縁してください。他の金属や電池と混じると発火、破裂の原因となります。
- 熱くなる、煙が出る、焦げ臭い等の異常時は、火傷に十分注意して速やかに電池を抜いてください。そのまま使用すると火災、火傷の原因になります。
- 車の運転者等にむけてストロボを発光しないでください。事故の原因となります。
- ストロボを目に近づけて発光しないでください。視力障害を起こす危険性があります。特に乳幼児を撮影する時は1m以上離れてください。
- ストロボ発光部を手で覆ったまま発光しないでください。火傷の原因となります。
- 外部ストロボを長時間使用しない時は、電池を抜いて保管してください。機器の故障、汚損の原因となります。
- 可燃性ガスの雰囲気中で使用しないでください。爆発、火災の原因となります。
- 落下等により機器内部が露出した際は、露出部に手を触れないでください。感電の危険があります。
- 分解、改造しないでください。内部には高電圧部があり感電の危険があります。
- カメラで太陽や強い光源を直接見ないでください。視力障害の原因となります。
- カメラは幼児の手の届かない所に置いてください。誤ってストラップを首に巻きつけると、窒息することがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。火災、感電の原因となります。

⚠ 注意　下記の注意を守らないと、けがを負う可能性及び物的損害の発生が想定されます。

- 高温状態の車中や熱いものの近くに放置しないでください。製品自体が高温になり、触ると火傷の原因になることがあります。
- 製品を布でおおったり、包んだりして使用しないでください。熱がこもりケースが変化し、火災の原因となることがあります。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を製品の洗浄に使用しないでください。火災や健康障害の原因となることがあります。
- カメラを三脚につけたまま移動しないでください。けがや事故の原因となることがあります。また、三脚はカメラ・レンズに対して十分に強度のあるものをご使用ください。
- レンズやレンズをつけたカメラを、レンズキャップを外したまま日光の下に放置しないでください。太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。
- 水に落としたり、内部に水または金属などの異物が入った際は、速やかに電池を抜いてください。火災、感電の原因となることがあります。

故障・不具合・破損の際は、お買い上げ店または弊社修理受付窓口にご連絡ください。

Canon

キヤノン株式会社

キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター（全国共通番号）

050-555-90002

受付時間：平日 9：00～20：00
土・日・祝日 10：00～17：00
（1月1日～1月3日は休ませていただきます）

※ おかけ間違いのないようにご注意ください。
※ 上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9556をご利用ください。
※ IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。
※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理受付窓口

別紙の修理受付窓口でご確認ください。

キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

canon.jp/eos-d

この使用説明書は、2011年1月に作成したものです。それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、上記のお客様相談センターにお問い合わせください。

CT1-5727-002